

1 助成対象事業

事業名	夏休み親子日本語教室	
事業種別 (A)	既存事業	新規事業
この事業に対し他の助成の有無 (B) (申請中のものを含む。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	有の場合は助成団体及び助成額 団体： 助成額： 円
事業実施地域及び会場 (C)	全国日本語教師会または区内地域センター予定	
スケジュール (実施期間等) (D)	5月 チラシ作成 (日本語・中国語・韓国語) 各学校・公民館に設置 7月16・23・30日 (土) 「子どもの日本語の教え方」講座 8月1日～12日 夏休み親子日本語教室 8月30日 スピーチコンテスト・子ども交流パーティー	
活動概要	区民ニーズの把握状況 (それは、どのように把握したかを含む。) (E-1)	新宿区公立小・中学校に在籍する外国人児童生徒は261人 (東京都教育庁学校統計) である。しかし不就学児童、外国系児童を含めると更に多くの外国人の子ども達が居住する。その保護者も含めると多くの日本語指導を必要とする外国人が数多くいる。 また、新宿区の大半の学校に外国人児童が在籍するが、その学校の教員も対象になる。
	対象者等 (区民等が享受する予想利益、区民等にもたらされる利益等について具体的に記入してください。) (E-2)	<ul style="list-style-type: none"> 対象者 外国人児童とその保護者 外国人児童の日本語指導にあたる教員またはボランティアの方 区民等が享受する予想利益の具体的内容等 外国人児童生徒また保護者が言語を習得することで、その後の学校生活または地域社会における生活において日本語で日本人とコミュニケーションをとることができる。また、スピーチコンテスト、交流パーティーにより多くの日本人に異文化、価値観を知っていただくことで、地域社会をあげて多文化共生を考えていただくことができる。
	地域の人たちの事業への係わり方 (ボランティアとして参加する等、どのように地域の人がこの事業に参画することができるかを記入してください。) (E-3)	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み親子教室は、補助教員として地域の方々、学校の教員にしてもらう。また、地域の方々が外国人に声をかけていただきより多くの方々に参加してもらう。交流パーティーは、ボランティアの方々が中心となって活動していただきたいと思っています。

具体的な活動内容	<p>活動内容詳細 必要に応じて、図表、地図、イラスト、写真等を添付し、又は印刷物等の資料を提出していただいても結構です。 (F - 1)</p>	<p>『子どもの日本語の教え方』 1・外国人児童生徒への日本語指導調査報告 2・日本語は日本語で教えられるか。 3・日本語指導と国語指導の違い 4・生活言語と授業理解 『夏休み親子日本語教室』 10日間の日本語教室(レベルを5段階に分ける) 外国人10名につき日本語教師1名 補助教員として学校教員、地域の方々が参加 『子ども国際交流パーティー』 外国人の親子が日本人に母国の文化を伝える。 日本人教員、生徒、保護者に参加を募る。</p>
	<p>必要とされる人員、設備等 (F - 2)</p>	<p>日本語教師・・・外国人児童10名につき1名 日本語教授法講座講師3名 交流パーティー運営ボランティアスタッフ5名 会場・教室 マーカー・ホワイトボード</p>
	<p>実行体制、必要な人材の確保のめど等 (F - 3)</p>	<p>また、日本語教室の運営に関しては、全国日本語教師会事務局と会員が行います。 日本語教師に関しては、多くの応募があります。</p>
	<p>期待される成果(地域にもたらす具体的効果) (F - 4)</p>	<p>『多文化共生のまち』とは、日本人と外国人のお互いが価値観、考え方を知ること、理解することが重要である。そのためには、日本人が外国人について知る機会 外国人が日本人に自分の考えを伝える機会または手段が必要である。 夏休み日本語教室は、外国人の親子の日本語能力の上達が目的ではあるが、10日間で話せるようになるとはいいがたい。その後の学校・地域社会のサポートが必要である。「日本語の教え方講座」また実際、補助教員として教えることで日本語指導の仕方を身に付けてもらう。また、交流パーティーなどに多くの日本人が参加してもらい多くの方々が「多文化共生」、「地域に居住する外国人」について考えることで「多文化共生のまちづくり」がすすんでいくと思われる。</p>